

化学・生物総合管理の再教育講座(講義内容)

後期

科目No.	553	科目名	コミュニケーション学事例研究4	サブネーム	市民とコミュニケーション		
連携機関名	くらしとバイオプラザ21	レベル	基礎	講義枠	水曜日	講義時間	18:30~20:00
科目概要(300字)	食品安全委員会がリスク分析手法を採用し、リスク評価、リスク管理、リスクコミュニケーションということばが聞かれる機会が増えている。評価や管理には専門家が関わり、調査報告や研究論文も出されているが、市民を対象とするコミュニケーション手法については様々な分野で担当者が試行錯誤を重ねている状態である。コミュニケーションの条件や環境も多様に異なる状況で、連携や情報交換も進んでいない。様々な分野における実際の活動を具体例として示しながら紹介し、「市民とのコミュニケーションのあり方」という切り口から、受講者とともに整理し、一緒に考えていく。						

サブタイトル	講義名	講義概要(150字)	講義日	教室	講師名	所属
はじめに	1 バイオの情報提供について	市民とのコミュニケーションという切り口で本講座で紹介される様々な活動の概要と本講座全体の進め方について説明する。NPO法人くらしとバイオプラザ21で企画・実施している体験実験教室や談話会など双方向性のある活動を紹介する。	10月4日	1号館101	佐々義子	くらしとバイオプラザ21
食における市民とのコミュニケーション	2 学校給食の現状と課題	定時制高校、小学校の学校給食における活動を通じて、食を考え、実践しながら見えてくる「食」のあるべき姿について紹介する。	10月11日		佐藤あけみ	神田(じんで)小学校
	3 インターネット上のコミュニケーション	未定	10月18日		森竹裕子	農林水産先端技術産業振興センター
	4 食と情報発信	ポストハーベスト、農薬、遺伝子組換え食品などを中心とした情報発信や催しの企画・実施を通じて見えてくる私たちの食生活について、よりわかりやすく情報発信をしようとしたらいいのかを考える。	10月25日		森田満樹	食品科学広報センター
	ビジネスにおける市民とのコミュニケーション(1)	5 バイテク教材販売を通して見た日本のバイテク教育	バイテク教材キットの販売を通して見てきた日本の学校及び社会でのバイオテクノロジーに関する教育の実際を、ライフサイエンス研究支援をしてきた立場から紹介し、今後の発展について考える。		11月1日	笹川由紀
6 女性のための企画作り		主婦を中心とした女性達へのバイオテクノロジー、遺伝子組み換え食品などの情報提供は、生活者へのレベルに合わせ表現することが重要であることを、経験を踏まえて考える。	11月8日		石井みな子	パーティーフー
ビジネスにおける市民とのコミュニケーション(3)	8 遺伝子組換え農作物と市民	日本の消費者への遺伝子組換え農作物に関する情報提供を行い、理解促進に努めてきた経験をふまえ、リスクとコミュニケーションのあり方について考える。	11月15日		坂本智美	シンジェンタジャパン(株)
教育/研究における市民とのコミュニケーション(1)	10 発展途上国の農業開発と遺伝子組換え作物	貧困問題・所得格差・人口問題など先進国とは異なる問題を抱えている発展途上国社会における「科学技術の革新と市民社会の関係」について、遺伝子組換え作物を事例に掘り下げる。	11月22日		山口富子	農業生物資源研究所
ジャーナリズムにおける市民とのコミュニケーション	9 食とジャーナリズム～情報のウソを見破る	食関連のジャーナリズムは、売れる情報しか流さないというマスメディアの構造的な問題と書き手の思い込みによって、往々にして大きくゆがめられている。報道をどのように見分け情報源として活用すべきか、また自ら情報発信する場合には何に注意すべきなのか、考える。	12月6日		松永和紀	科学ジャーナリスト
ビジネスにおける市民とのコミュニケーション(2)	7 生活者視点に立った商品づくり	時代とともに、生活者の生活スタイルは変化している。生活雑貨の製造を通じて、生活者の意識や行動を把握してきた立場から、試行錯誤しつつ生活者とのコミュニケーションをし、商品(モノ)づくりをしていく過程の一部を紹介する。	12月13日		小島みゆき	花王(株)生活者研究センター
教育/研究における市民とのコミュニケーション(2)	11 東南アジアの農村と市民を結ぶ	タイ、フィリピン、インドネシアなどのファ-ミングシステムや病害防除の研究から、農民と市民の、食の安全を介した関わりを考える。	12月20日		夏秋啓子	東京農業大学
	12 医療における情報提供コミュニケーション、遺伝カウンセラーの立場から	遺伝カウンセリングでは、遺伝や遺伝子、遺伝性疾患や先天異常に関する心配や疑問を抱いている人々に対して、様々な情報を伝えるとともに、人々が疾患や遺伝の情報をどのように受け止めるかを考慮しながら、その後の方向性を個人が自律的に決断していくプロセスを支援する。そうした実践の様子を紹介するとともに、遺伝子診断などについても触れてみたい。	1月10日		田村智英子	お茶の水女子大学大学院
	13 体験・追求型教育プログラム	UCパークレイローレンスホールで研究・作成された科学と数学の教材であるGMES(Great Explorations in Math and Science)の日本での普及活動を踏まえ、感動を伝え個人の思考・判断力を伸ばし社会への理解深化を支援することの意義を考える。	1月17日		古川和	ティーチングキッズ
行政における市民とのコミュニケーション	14 バイオ産業への国民理解	化学業界、バイオ業界の振興・育成策を立案・実施してきた経験をもとに、経済産業政策の企画・立案の過程を一部紹介することによって、行政と市民のコミュニケーションのあり方について考える。	1月24日		行本治代	経済産業省生物化学産業課
まとめ	15 全講義をふりかえって	全講義を通じて、より公平な市民を交えたコミュニケーションのあり方について、全員の意見を出し合い、整理する。	1月31日		佐々義子	くらしとバイオプラザ21